

# 教員養成課程における模擬授業の 評価の観点に関する一考察

—— 小学校音楽科模擬授業における観点別ルーブリックの作成  
および実践を通して ——

渡 会 純 一

要旨：平成 29 年 3 月に告示された新学習指導要領において、音楽科の評価の観点が「能力分析的観点」に完全に一致することとなった。これまで本学講義「音楽科の指導法」において、筆者は指導案作成や模擬授業実施に関する講義を行ってきており、模擬授業の評価について試行錯誤を繰り返しながら実施してきた。しかし、より客観的な評価の観点が必要であろうと考えていた。そこで今回の改訂を受け、今年度から新たな模擬授業の評価の観点およびルーブリックの作成を行った。実際に授業内でこれらの観点をを用いて模擬授業を実施し、総合評価を行った結果、① 学生は「授業時の先生らしさ」「歌唱の技能」「授業時に必要な事柄（教材研究）」を模擬授業の重要なテーマと捉えている、② 特に「授業時の先生らしさ」において、教師役の話し方で空気感が変わり、児童役の発言を生かした授業展開をすると評価が高い、③ 「模擬授業の実施」に関して別の視点が必要、以上の点が明らかとなった。これにより、新たな評価の観点を見出すことができた。

キーワード：相互評価、ルーブリック、テキストマイニング

## 1 教科における評価の観点の変化

### (1) 音楽科としての評価の観点

現行の学習指導要領における小学校音楽科の評価の観点は、平成 24 年から実施されている【音楽への関心・意欲・態度】【音楽表現の創意工夫】【音楽表現の技能】【鑑賞の能力】となっている。これについて芳賀（2015）は、「音楽科における評価の観点を見ると、他の教科と異なっている。「能力分析的観点」に（中略）「内容分析的観点」が混在した形となっている」と述べている<sup>1)</sup>。他教科の場合【関心・意欲・態度】【思考・判断・表現】【技能】【知識・理解】のような「能力分析的観点」となっている。この点と比較すると、音楽科の場合【音楽への関心・意欲・態度】【音楽表現の創意工夫】【音楽表現の技能】は「能力分析的観点」であるのだが、【鑑賞の能力】のみ「内容分析的観点」として独立している。

そもそも、音楽科の内容は「A 表現（「歌唱」「器楽」「音楽づくり）」および「B 鑑賞」そしてこれらの土台に位置する【共通事項】で構成されている。このうち「A 表現」のさまざまな活動は【音楽への関心・意欲・態度】【音楽表現の創意工夫】【音楽表現の技能】という観点で横断的に評価を行うのだが、「B 鑑賞」のみは評価の観点に直結している。このことは音楽科の授業

で取り扱う内容を観点にしてそのまま評価をするという、言わば教師目線の評価となっていることを現している。このように2種類の観点が混在していることが、音楽科の評価の特異性を現していると言えよう。

次に、2017（平成29）年3月に告示された新学習指導要領では、目指す資質・能力について「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力」と規定し<sup>2)</sup>、【知識および技能】【思考力・判断力・表現力等】【学びに向かう力・人間性等】の3観点を示した。これは今まで一部教科が「内容分析的観点」で評価が分類されていたものがすべて「能力分析の観点」となったこと、言い換えれば、ケーキを縦に切っていたものを横に切るような感覚である。例を挙げると、先述した「鑑賞」の評価が主に現行の【鑑賞の能力】1つで評価できたものが、今後は【知識・技能】のうちの「知識」、【思考力・判断力・表現力等】の2観点で評価を行う。さらにこれらの観点の中には「鑑賞」以外にも「歌唱」など「A表現」の評価も絡んでくることから、鑑賞のみの評価がそのまま成績に反映されることはなくなる、ということになる。

ここで新学習指導要領解説書を見ると、ア「思考力・判断力・表現力等」イ「知識」ウ「技能」とある。このことから、「知識」と「技能」が分割されているのがわかる。そして、項目ごとに「ア～ウ」（鑑賞および共通事項はイまで）の指導事項が明記されている。これに「学びに向かう力・人間性等」が仮に「エ」となれば、「新・評価の観点」の完成とも言える。このことは、今までの評価のあり方から考え方を根本的に改める必要が出てくることを物語っている。だが、今回の評価の観点は既出の芳賀によれば、ようやく音楽科も他教科と足並みをそろえることができたという解釈となる。従って、今後の音楽科のカリキュラムについても、今回の新学習指導要領に対応する必要がある。

## (2) 模擬授業の評価の観点

模擬授業に着目すると、様々な観点が存在する。まず、安藤（2015）によると、模擬授業における他のグループの評価は表1のように行い、それぞれABCの3段階評価をつけるとしている<sup>3)</sup>。

表1 模擬授業の評価（安藤 2015）

| 班                | 題 材 名       |             |              |                 |            | 対象学年 |
|------------------|-------------|-------------|--------------|-----------------|------------|------|
| 主な指導内容           |             |             |              |                 |            |      |
| 評 価              | 対象学年に合っているか | 授業全体の構成はどうか | 主な指導内容は伝わったか | 教師の指導力（話し方 技術面） | 教材・音響環境設定等 |      |
| A B C            |             |             |              |                 |            |      |
| 感想 良い点<br>改善点 など |             |             |              |                 |            |      |

このシートはこのうち最後の「教材・音響環境設定等」を除き、どの教科でも応用可能となっていること、そして短時間で記載可能であることが特徴である。その一方で、音楽的な指導に関する評価の文言が含まれていない点や、感想欄が一つであることから包括的な内容の記載となる可能性のある点、以上2点が気になる点である。

次に、各都道府県の教員採用試験では「模擬授業」を課題にするところも比較的多く、これらの観点は学習指導要領における評価の観点とは全く別のものでまとめられている。これが物語るのは、児童用の評価と教師用の評価の観点は別であり、教師用の評価の観点のほうが、審査員にとっても評価をしやすいということと言える。表2は千葉県・千葉市、鳥取県、そして秋田県の例が示されている<sup>46)</sup>が、項目の順序や観点が県により異なり、掲載順序に優先順位があるとするならば、求めている教師像が都道府県によって異なっていると解釈することもできる。なお、

表2 各都道府県の模擬授業の評価例（筆者編集）

| 都道府県等                 | 評価項目               | 主な着眼点  |
|-----------------------|--------------------|--|
| 千葉県・千葉市<br>【2017年度実施】 | 人間性                | 表情や動きに明るさや温かさがあるか。<br>児童生徒の考えや意見をしっかりと受け止めているか。  |
|                       | 資質情熱               | 柔軟性に優れ、時と場に応じた指導ができているか。<br>児童生徒の気持ちに配慮しながら理解を深め、信頼を築こうとしているか。<br>児童生徒の興味関心を引き出すための工夫をしているか。   |
|                       | 指導力                | 児童生徒の考え等をよく把握し、分かりやすい授業を行っているか。<br>授業のねらいが明確で、説明・発問が簡潔明瞭か。<br>児童生徒の発達段階と場に応じた指導をしているか。   |
| 鳥取県<br>【2017年度実施】     | 教育の専門家としての指導力      | 児童生徒等の思いや立場を理解する力を有しているか。<br>教科等の専門性を生かし、児童生徒等の実態に即して、自主性・自律性を育む指導を行うことができるか。<br>問題を柔軟に思考・分析し、解決方法を具体的に構想することができるか。<br>指導内容、指導方法が児童生徒等の心に響くものであり、主体的な活動を引き出す指導となっているか。 |
|                       | 教育に対する情熱・教員としての使命感 | 教育的愛情・信念を持って児童生徒に接しようとしているか。<br>鳥取県の教員としての誇り、責任感を持って教育に携わろうとしているか。<br>表情豊かに熱意を持って、自分自身の考えを伝えることができるか。<br>鳥取県の将来を見据え、児童生徒が新たな価値を創造するなど、未来を創造する力を育成しようとしているか。            |
|                       | 豊かな人間性             | 感性豊かで温かく、人間的な魅力を有しているか。<br>豊かな教養と人権意識を身につけ、バランスのとれた判断ができるか。<br>児童生徒の知的好奇心を喚起することができるか。   |
| 秋田県<br>【2017年度実施】     | 授業の構成力             | 教科等に関する専門的知識を基盤とした実践の指導力を有し、個性豊かで広く豊かな教養を兼ね備えているかどうか。  |
|                       | 専門的知識              |  |
|                       | 創意工夫や引きつける力        |  |

これについても全教科共通のものであることから、音楽面については触れられておらず、鳥取県の「教育の専門家としての指導力」や秋田県の「専門的知識」が一部それに含まれる程度である。

ここで筆者が2007年度より行ってきた本学「音楽科の指導法」における模擬授業の相互評価の観点についてまとめたものを表3に示す。本講義は小学校教員養成科目として必須科目となっている。なお、表記は記載順であり、細分化された観点については省略している。また、年によっ

表3 これまでの「音楽科の指導法」模擬授業における評価の観点の変遷（筆者作成）

| 年度        | 名称       | 評価の観点  | 記述内容  |
|-----------|----------|--|---|
| 2007      | *なし      | 1 授業の流れ 2 話し方・声の大きさ 3 歌唱や演奏の手本 4 分担 5 子どもが受けたいと思う授業内容か 6 教師自身楽しんでいるか                                     | ◎○△×の4段階をつけ、自由記述                                  |
| 2008      | 歌唱指導     | 1 資料のわかりやすさ 2 資料の内容 3 資料その他 4 声の大きさ 5 歌わせ方 6 生伴奏 7 分担 8 その他  | ABCで評価、自由記述                                       |
| 2008      | 模擬授業     | 1 指導案記入漏れの有無 2 指導案内容の一致 3 声の大きさと抑揚 4 話のわかりやすさ 5 先生らしさ 6 掲示・教材準備・ワークシート 7 手本・生伴奏 8 時間配分 9 飽きさせない工夫 10 その他 | ABCで評価、自由記述                                       |
| 2009      | V2       | 1 指導案 2 指導案の充実 3 声の大きさ 4 授業内容（音楽的分野） 5 授業内容（音楽的分野以外） 6 掲示・教材準備・飽きさせない工夫 7 手本・伴奏 8 その他（楽しさ）               | 良かった点、改善すべき点で自由記述（評価なし）                           |
| 2010      | 理論編      | 1 声の大きさ 2 配布資料 3 展示資料 4 歌わせ方 5 生伴奏 6 役割分担 7 レジメ提出  | 歌唱指導用。ABCで評価、自由記述                                 |
| 2010      | 実践編      | 1 声の大きさと抑揚 2 話の内容のわかりやすさ 3 先生っぽさ 4 環境構成 5 手本 6 テンポ感 7 楽しんで 8 学齢発達 9 役割分担 10 レジメ提出                        | 模擬授業用。ABCで評価、自由記述                                 |
| 2011～2012 | V4       | 1 指導案 2 事前準備 3 内容 4 先生らしさ 5 その他  | 良かった点、改善すべき点で自由記述（評価なし）                           |
| 2013      | V5       | 1 資料のわかりやすさ 2 資料の質 3 声の大きさ・話し方 4 歌わせ方 5 内容 6 先生らしさ 7 その他 8 生演奏ボーナス                                       | 良かった点、改善すべき点で自由記述（評価なし）                           |
| 2014      | V6, V6.1 | 1 資料の正確さ 2 資料のわかりやすさ 3 声の大きさ・話し方 4 歌わせ方 5 内容 6 先生らしさ 7 生演奏ボーナス 8 その他                                     | 良かった点、改善すべき点で自由記述（評価なし）                           |
| 2015 前期   | V7, V7.1 | 1 資料の正確さ・わかりやすさ 2 内容 3 音楽面 4 話し方・振る舞い方 5 生演奏ボーナス 6 その他   | 良かった点、改善すべき点で自由記述（評価なし）                           |
| 2015 後期   | V7.2     | 1 資料の正確さ・わかりやすさ 2 内容 3 音楽面 4 話し方・振る舞い方 5 その他   | 良かった点、改善すべき点で自由記述（評価なし）                           |
| 2016 前期   | V8       | 1 音楽指導 2 教育技術 3 内容 4 先生らしさ（話し方） 5 先生らしさ（振る舞い）  | 良かった点、疑問点・要改善点で自由記述（評価なし）                         |
| 2016 後期   | V9       | 1 事前準備 2 内容 3 音楽的要素 4 先生らしさ 5 その他  | 良かった点、疑問点で自由記述（評価なし、途中からEduTrackによるパソコン入力も選択可とする） |

て書式が異なったり、項目数の数字を使わなかったりすることもあったが、今回は順序が分かるように数字を入れて記載している。これらを見ると、おおよそ「準備物」（資料・指導案・ワークシート等）「授業の内容」「教師らしさ（言動・行動）」「音楽面（手本・生伴奏・音楽面の指導）」に分類されていることが分かる。実施年度によりよりわかりやすい評価を目指し、順序を変える・文言の言い方を変えるなどの試行錯誤を繰り返してきたが、基本的には前年度を踏襲したものとなっていた。表1や表2と比べると、音楽面という評価の観点があることが特徴ではあるが、これは筆者の小学校での教員経験をもとに組み立てたものであることから、観定の根拠にあいまいさが残る。

### (3) 研究の目的

これらを受けて、本学前期の「音楽科の指導法」講義における模擬授業の相互評価の観点を新たに設定し、実際の記述内容を分析する。このことで特徴が表出されることにより、模擬授業の相互評価をする際に必要な評価の観点を見出すことを目的とする。

## 2 研究の対象と方法

上記の背景を踏まえ、本研究では準備段階として新たな評価の観点を作成し、その上で2種類の分析を行うこととした。対象は前期に行われた「音楽科の指導法」週3コマ×模擬授業9枠＝27回分の実施となり、チェックシートは毎回授業者を除く全員が記入するものとする。全てのコマで40人ずつ受講していることから、授業者を4人とすると36名が記入することとなり、それが27回分であるので、理論上は972枚あることとなる（実際は学生の都合<実習中や欠席等>で減少している）。

### (1) 新たな評価の観定の作成

2017年度より授業そのものの評価を新学習指導要領の評価規準と同様の3観定に変更を行った。実施にあたり、表4のような評価を設定し、シラバスに掲載した。設定にあたり、以下の点

表4 「音楽科の指導法」における評価の観定（平成29年度前期実施）（筆者作成）

| 評価の観定         | 評価の内容   |
|---------------|---|
| 【知識・技能】       | 音楽科学習指導案の書き方および歌唱共通教材24曲を理解するとともに、表したい音楽表現を授業で展開するための技能が身につく。     |
| 【思考力・判断力・表現力】 | 音楽表現を考えて表現に対する思いや意図を持ち、授業づくりに必要な事柄について判断し、歌唱指導や模擬授業として実施することができる。 |
| 【学びに向かう力・人間性】 | 協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむとともに、主体的に歌唱指導および模擬授業に参加することができる。    |

に注意して作成を行った。

- ・歌唱共通教材の理解は「知識」と捉える。また、音楽の表現指導ができることを「技能」と捉える。
- ・表現に対する思いや意図は、児童の様子や実態などから指導方法を判断することから「判断力」、教具（ワークシート、プレゼンテーションなど）の使用は必要な部分について考えて書き著すことから「思考力」と「表現力」、模擬授業（歌唱指導含む）で児童役の前に立って行う教師役の行動については「思考力・判断力・表現力」と捉える。
- ・様々な音楽に親しむ気持ちで主体的に本講義に参加し、模擬授業等に協働して音楽活動を楽しく行うことを「学びに向かう力・人間性」と捉える。

なお、新学習指導要領解説書が発刊される前に作成および掲載を行ったことから、評価の観点の表記について「等」がない、「及び」が「・」になっているなど、解説書の表記と若干異なっていることを申し添えておく。

これらの観点に対応すべく、実際に行われる模擬授業を踏まえ、次の9観点を設定した。そのうち【知識・理解】に関しては観点①～④、【思考力・判断力・表現力】に関しては観点⑤～⑦、【学びに向かう力・人間性】に関しては観点⑧⑨が細分化された観点となる。なお、実際に行われる模擬授業の内容を表5に示した。

- ① 「学習指導案の書き方の理解」……音楽づくりの授業のみを対象とする（歌唱指導では指導案は作成するものの、指導時間が短いため本時はその流れでなくて良いこととしている）。授業の流れや教師の支援等の表記が充実しているかを評価する。
- ② 「教材の理解」……知識や内容、情報などの面においてどれだけあるかをみる。また、歌唱指導において、歌詞の意味の説明を最後の番まで説明できているかを評価する。

表5 模擬授業のグルーピング（2017年度前期）

| 学年       | 歌唱共通教材   |  |
|----------|--|--|
| 1年       | うみ かたつむり 日のまる  |  |
| 2年       | 春がきた 虫のこえ 夕やけこやけ   |  |
| 3年       | 選茶つみ 春の小川 ふじ山  |  |
| 4年       | とんび まきばの朝 合もみじ   |  |
| 5年       | こいのぼり 合スキーの歌 合冬げしき   |  |
| 6年       | 合おぼろ月夜 合ふるさと われは海の子  |  |
| 1～3年日本旋法 | 選ひらいたひらいた 選かくれんぼ うさぎ   |  |
| 4～6年日本旋法 | さくらさくら 子もり歌（2種類の旋律両方指導） 越天楽今様  |  |
| 音楽づくり    | 月3：1年教育芸術社「ほしぞらのおんがく」<br>月4：2年教育出版「みんなの音楽時計をつくろう」<br>月4：3年教育出版「よびかけっこで森の音楽をつくろう」 |  |

合：合唱必須  
選：遊び必須  
1曲あたり15～25分で歌えるようにする。



- ③ 「歌唱の技能」…… 歌唱指導の授業のみを対象とする。適切な音程で、伸びやかな声で手本を歌えているかをみる。なお、歌唱には弾き歌いも含むものとする。
- ④ 「楽器演奏の技能」…… 歌唱指導におけるピアノ伴奏、音楽づくりにおける模範演奏の手本を評価する。
- ⑤ 「音楽表現に対する思いや意図を持つ」…… 音楽指導面である。入りの合図や指揮、強弱の指導、そして歌えるようになるまで音取りの指導ができたかをみる。歌えていないのに「よく歌えました」というのは認めていない、ということを告げている。音楽的な表現力をつけるために、児童役の実態からどのように判断してどのような指導をしたか、実践を見て評価する。
- ⑥ 「授業づくりに必要な事柄」…… 授業にて使用する様々な道具等の準備状況である。おもに掲示物や提示する画面、使用する楽器の準備、板書計画、道具や机等の配置、ワークシートなどを指す。授業を組み立てるにあたって必要な場面と内容を考え、そしてどのように表現すると伝わりやすいか、配布資料やプレゼンを見て評価する。
- ⑦ 「模擬授業の実施」…… 授業として楽しく、学びたくなるような導入、テンポ感、満足していくまとめ方など、全体の流れを包括的にチェックする。授業全体の組み立てについて、実践を見て評価する。
- ⑧ 「授業時の先生らしさ」…… 話し方（速度、声量、抑揚、学年相応の言葉の選択など）、振る舞い（机間指導、見取り、ことばかけなど）をみる。原稿の見過ぎや棒読みは、ここでチェックを行うこととする。教師役として、きちんと適切な行動ができているか、人間性を評価する。
- ⑨ 「主体的に活動」…… 教師自身が模擬授業を楽しんでいる（ように見せている）か。主にグループ間の協力体制（役割分担）などをチェックする。グループで課題に向かいながら、意欲的に伝えようとしているかを評価する。

## (2) 評価の方法

今年度の前期科目における評価の方法は、次のとおりである。今年から本学の全科目においてルーブリックを実施することから、これらを採用して5段階評価を形成する。まず、1回目の模擬授業時に5段階の詳細が書かれたルーブリック（表6）を配布し、今後これを参考にしよう指示を行った。ルーブリックでは、松下ら（2015）の設定するルーブリックレベルの設定方法のうち「動詞型」および「形容詞型」を採用した<sup>7)</sup>。次に、授業時に9観点が書かれたA4版のチェックシート（図1）を毎回授業開始時に配布し、該当する全観点に対し5段階評価を実施させた。さらに、その上で特徴的だった2観点以上について、自由記述のメモを行わせた。そして、書いた記述に基づき、授業外学習として、授業後2日以内に本学で行われているEduTrackというインターネットシステムの「アンケート機能」に設置した同一の問題に入力をさせている。記述に

表6 「音楽科の指導法」 模擬授業相互評価用ルーブリック【筆者作成】

| 評価の内容   | 評価する能力        | 細分化した点   | 5   | 4                                     | 3  | 2                                   | 1                         |
|---|---------------|--|---|---------------------------------------|--|-------------------------------------|---------------------------|
| 音楽科学習指導案の書き方および歌唱共通教材24曲を理解するとともに、表したい音楽表現を授業で展開するための技能が身につく。     | 【知識・技能】       | 学習指導案の書き方の理解<br>*音楽づくりのみ   | 音楽科学習指導案の書き方を理解し、適切に書くことができる。               | 音楽科学習指導案の書き方を概ね理解し、少ないミスで書くことができる。    | 音楽科学習指導案の書き方をだいたい理解しているが、ミスが多い。            | 音楽科学習指導案から授業の流れが読めない。               | 音楽科学習指導案が書けない。配っていない。     |
|   |               | 教材の理解(知識・内容・情報面)<br>・歌詞の意味(最後の番まで)   | 教材を正しく理解し、説明や授業展開において、知識が豊富である。             | 教材をおおむね理解し、説明や授業展開で多少の知識があることが見受けられる。 | 教材について、原稿を見ながら説明ができる。                      | 教材の説明があまりできない。原稿棒読みの状態である。          | 教材について知らず、説明できない。         |
|   |               | 歌唱(弾き歌い含む)の技能(歌唱手本)<br>*歌唱指導のみ   | 適切な音程で、伸びやかな声で歌唱できる。                        | おおむね間違えずに歌唱できる。                       | 声量がやや弱いが、おおむね間違えずに歌唱できる。                   | 声量が弱く、ピアノなどに負けて聞き取れない。または音程等にミスがある。 | 正しい音程やリズムで歌唱できない。         |
|   |               | 楽器演奏の技能(ピアノ、リコーダー、鍵盤ハーモニカ、打楽器、演奏手本等)   | 楽器を適切な表現を付けて演奏できる。                          | 楽器をおおむね演奏できる。                         | 間違いながらも、演奏を止めずに演奏できる。                      | 演奏するが、間違いが多く、演奏を止めてしまう。             | 楽器の演奏ができない。               |
| 音楽表現を考えた表現に対する思いや意図を持ち、授業づくりに必要な事柄について判断し、歌唱指導や模擬授業として実施することができる。 | 【思考力・判断力・表現力】 | 音楽表現に対する思いや意図を持つ(音楽指導のセンス)<br>・歌えるようになるまで指導したか                               | 子どもたちが上達するように、指揮や入りの合図、表現に関する指導などを適切に行っている。 | 指揮や入りの合図、表現に関する指導などをそれなりに行っている。       | 指揮や入りの合図、表現に関する指導などがあるもの、行っている。            | 指揮や入りの合図、表現に関する指導などが正しくできない。        | 指揮や入りの合図、表現に関する指導をしない。    |
|   |               | 授業づくりに必要な事柄(準備物、掲示、楽器、板書計画、配置、ワークシート等)                                       | 授業づくりに必要な準備等を望ましい形で行っている。                   | 授業づくりに必要な準備等についておおむね行っている。            | 授業づくりに必要な準備等があまりされていない。                    | 授業づくりに必要な準備等が見られない。                 | 授業づくりに必要な準備等が分からない。       |
|   |               | 模擬授業の実施(全体的な流れなど)<br>・楽しい導入、満足のいく終末  | 模擬授業の流れを理解し、適切に実施できる。                       | 模擬授業をややぎこちないながらも実施できる。                | 模擬授業にさまざまな工夫があるもの、グループ内で助け合いながら実施することができる。 | 模擬授業の途中で、何をしたらよいかかわからず、流れが止まる。      | 模擬授業の実施ができない。             |
| 協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむとともに、主体的に歌唱指導および模擬授業に参加することができる。    | 【学びに向かう力・人間性】 | 協働での音楽活動:授業時の先生らしさ・話し方:スピード、語術、声量、言葉の選択(学年相応)<br>・振る舞い:机間指導、見取り・原稿棒読みをしていないか | 適切な話し方や振る舞いができている。                          | 話し方や振る舞いを気をつけて行っている。                  | 話し方や振る舞いにつまづきなど、不自然さが見られる。                 | 話し方や振る舞いに違和感がある。                    | 話し方や振る舞いが適切ではない。          |
|   |               | 様々な音楽に親しみ、主体的に活動に参加(教師自身が楽しんでいるか)<br>・適切な役割分担                                | 模擬授業を大いに楽しみながら適切に行っている。                     | 模擬授業での子ども役との受け答え等を楽しみながら行っている。        | 模擬授業での楽しさを見出そうとしている。                       | 模擬授業を楽しむ余裕がない。                      | 模擬授業にやる気を感じられない。分担に偏りがある。 |

際し、①できるだけ良い点を見つめる、②要改善事項があっても、辛辣なことだけではなく対策を提示する、③模擬授業時に他の学生は基本子ども役なので、授業の流れ上隙間があるときのみチェックシートにメモをしても良い、の3点を約束事項とした。

次に、模擬授業の点数化については、以下のように行った。①学生が相互評価で5段階評価を実施し、期限までにEduTrackにて提出する。②提出された8観点の5段階評価の観点ごとの平均値を算出する。③②の平均値とそれと教員の評価を照合し、微調整を行い点数をつける。



| 音楽科の指導法チェックシート v10 |  | サイン   |       |          |
|--------------------|--|-------|-------|----------|
| 月 日 ( ) 限 内容       |  |       |       |          |
| 評価する観点             | 相分化した観点  | よい点メモ | 疑問点メモ | 5段階評価    |
| 【知識・技能】            | 学習指導案の書き方の理解<br>＊音楽づくりのみ   |       |       | ＊音楽づくりのみ |
|                    | 教材の理解（知識・内容・情報源）<br>・歌詞の意味（最後の審まで）   |       |       |          |
|                    | 歌唱（弾き歌い含む）の技能（歌唱手本）<br>＊歌唱指導のみ   |       |       | ＊歌唱指導のみ  |
|                    | 楽器演奏の技能（ピアノ、リコーダー、鍵盤ハーモニカ、打楽器、演奏手本等）   |       |       |          |
| 【思考力・判断力・表現力】      | 音楽表現に対する思いや意図を持つ（音楽指導のセンス）<br>・歌えるようになるまで指導したか                                       |       |       |          |
|                    | 授業づくりに必要な準備（準備物、掲示、楽器、板書計画、配置、ワークシート等）<br><br>模擬授業の実践（全体的な流れなど）<br>・美しい導入、満足のかいく終末   |       |       |          |
| 【学びに向かう力・人間性】      | 協働での音楽活動・授業時の先生らしき<br>・話し方 スピード、話術、声量、言葉の選択（学年相応）<br>・振る舞い：机間指導、見取り<br>・原稿棒読みをしていないか |       |       |          |
|                    | 様々な音楽に楽しみ、主体的に活動に参加（教師自身が楽しんでいるか）<br>・適切な役割分担  |       |       |          |

図1 配布したチェックシート

④ ③ で出た観点別評価 8 観点を平均し、出た数値に 20 をかけたものが点数（100 点満点）となる。

本講義内の模擬授業では、学生は平均 4 人程度のグループを組み、1 コマあたり 9 つのチームを構成した。実際に行うにあたり、歌唱指導については、1 曲毎に担当する曲を分担するか、歌の手本担当・ピアノ伴奏担当・楽曲解説担当・音取り担当などに役割分担をするかは任意とした。音楽づくりの場合は、持ち時間の中で必ず 1 回は T1（主担当）を実施することとした。

### (3) 分析

上記の評価の観点を用いて実際の模擬授業の相互評価を実施した。そこに書かれたチェックシートをもとに、以下の 2 種類の分析を実施した。

### A 評価の内容からの分析

今年度前期実施分の「音楽科の指導法」で記載されたチェックシートの点数やコメントの内容を参照しながら分析を行う。この中から特徴的なものをピックアップし、その時に撮影したビデオ映像を交えながら分析を行っていく。EduTrackに入力されたすべてのデータをExcelにて算出し、延べ810人の回答を得た。理論上の回答者数972人から計算し、ルーブリック5段階評価における有効回答率83.3%、このうちコメントについて白紙回答が22人いることから、コメントにおける有効回答率は81.1%である。

### B テキストマイニングによる分析

もう一つは「テキストマイニング」の手法である。福島編(2016)はテキストマイニングについて、「自由記述やインタビューの記録、新聞記事などの文章を、コンピュータを用いて言葉を抽出し、統計的に分析していく手法」と説明している<sup>8)</sup>。このような分析法を樋口(2014)は「計量テキスト分析」と呼び、定義について「計量的分析手法を用いてテキスト型データを整理または分析し、内容分析(content analysis)を行う手法」と述べている<sup>9)</sup>。この定義を用いて質的分析法を数的に処理すべく、樋口が考案したフリーソフトウェアが「KH Coder」(Ver.2.00f)である<sup>10)</sup>。越中ら(2015)は「KH Coderは、語の選択にあたり恣意的となり得る「手作業」を廃し」と述べていることから、客観性を重視するために有効な手段であると言える<sup>11)</sup>。これらのことから、質的分析にありがちな恣意的分析を避けるべく、本研究ではこれを手法として採用することとした。

実際の方法としては、EduTrackで得られた文字データを「KH Coder」にて抽出し、共起回数および単語の出現頻度をまとめる。その際、分析対象の品詞を「名詞」「サ変名詞」「形容動詞」「動詞」「形容詞」の5つとし、出現回数を2回以上と定めた。次に共起の程度が強い語を線で結んで共起ネットワークを作成した。この図の特徴として、語と語の関係が多く出現しているものは線が太く、語そのものが多く出現するものは円が大きくなる。また、語の色分けは「サブグラフ検出(媒介)」モードを用いた。これにより、同じ繋がりのある言葉は実線で結ばれ、媒介については破線で結ばれるため、関係性が見えやすいのが特徴である。実際の言葉の共起の具合については、「関連語検索」の機能を用いて検索し、具体的な文章を「KWIC コンコーダンス」によって実際に見ながら確認を行った。以上の点から分析し、そこから得られる概念をまとめていくこととする。

今回の研究において、次のような4つのコーディングを行った。①「子ども」「子供」「児童」「生徒」については、小学校で呼称している「児童」に統一、「先生」「教師」「教員」は「教師」に統一した。②「思う」「感じる」「考える」「分かる」「知る」の表記については文末表現であること、また「良い」も単独だと抽出されることで意味内容が不明になることから、「KH Coder」の機能の一つである「使用しない語の指定」を用い、マイニングの対象から除外した。③「歌える」に関しては、「歌うことができる」に言葉を変換し、「歌う」でカウントできるようにした。

④ 描画数はサンプル数の違いから、歌唱指導は60、音楽づくりは40とした。これらのコーディングにより、明確な特徴が浮かびあがるようにした。

### 3 結 果

#### A 評価の内容からの分析

##### (1) 評価の着目度

全8観点中2観点以上に自由記述で書き込むというルールにした関係で、観点により書き込み量に差が出ている。これはその学生が模擬授業のどこの部分が印象的だったか、ひいてはどの部分を重要視しているかを表す指標とも言える。まとめると表7のとおり、観点8「授業時の先生らしさ」についてが16.41（小数第三位を四捨五入、以下同様）と多く、つぎに観点3「歌唱の技能」（13.17）、観点6「授業づくりに必要な事柄」（12.85）、観点2「教材の理解」（12.81）と続

表7 模擬授業観点別書き込み回数

| 日程     | テーマ     | 記載人数 | 観点1着目度      | 観点2着目度      | 観点3着目度      | 観点4着目度      | 観点5着目度      | 観点6着目度      | 観点7着目度      | 観点8着目度      | 観点9着目度      |
|--------|---------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 5/12金4 | 日本123年  | 36   | ×           | 21          | 15          | 19          | 13          | 23          | 17          | 21          | 8           |
| 5/19金4 | 1年      | 22   | ×           | 6           | 13          | 1           | 8           | 14          | 8           | 11          | 6           |
| 5/26金4 | 2年      | 17   | ×           | 9           | 13          | 4           | 8           | 8           | 8           | 14          | 4           |
| 6/2金4  | 音楽づくり3年 | 31   | 6           | 10          | ×           | 15          | 12          | 22          | 16          | 23          | 13          |
| 6/16金4 | 3年      | 32   | ×           | 21          | 15          | 12          | 13          | 17          | 11          | 17          | 10          |
| 6/30金4 | 日本456年  | 31   | ×           | 14          | 14          | 11          | 10          | 9           | 12          | 23          | 13          |
| 7/7金4  | 5年      | 33   | ×           | 20          | 21          | 9           | 14          | 13          | 10          | 14          | 11          |
| 7/14金4 | 6年      | 34   | ×           | 19          | 20          | 9           | 10          | 11          | 10          | 13          | 8           |
| 7/21金4 | 4年      | 37   | ×           | 14          | 20          | 18          | 17          | 11          | 13          | 18          | 9           |
| 5/8月3  | 1年      | 33   | ×           | 12          | 13          | 10          | 7           | 14          | 11          | 21          | 5           |
| 5/15月3 | 2年      | 22   | ×           | 8           | 6           | 6           | 8           | 11          | 7           | 12          | 5           |
| 5/22月3 | 日本456年  | 28   | ×           | 17          | 4           | 9           | 8           | 10          | 4           | 16          | 2           |
| 5/29月3 | 3年      | 35   | ×           | 22          | 9           | 5           | 9           | 11          | 10          | 11          | 3           |
| 6/5月3  | 4年      | 30   | ×           | 16          | 13          | 2           | 15          | 3           | 7           | 16          | 4           |
| 6/12月3 | 日本123年  | 31   | ×           | 9           | 10          | 3           | 16          | 7           | 11          | 16          | 5           |
| 6/19月3 | 5年      | 36   | ×           | 24          | 7           | 4           | 14          | 10          | 7           | 18          | 4           |
| 6/26月3 | 6年      | 18   | ×           | 8           | 4           | 4           | 6           | 9           | 5           | 9           | 1           |
| 7/3月3  | 音楽づくり1年 | 13   | 2           | 2           | ×           | 4           | 4           | 6           | 4           | 9           | 5           |
| 5/8月4  | 2年      | 38   | ×           | 18          | 25          | 18          | 18          | 21          | 9           | 21          | 9           |
| 5/15月4 | 日本456年  | 31   | ×           | 16          | 17          | 14          | 16          | 20          | 8           | 21          | 8           |
| 5/22月4 | 1年      | 30   | ×           | 3           | 9           | 7           | 12          | 17          | 18          | 19          | 8           |
| 5/29月4 | 4年      | 32   | ×           | 10          | 15          | 8           | 18          | 11          | 12          | 25          | 5           |
| 6/5月4  | 3年      | 34   | ×           | 16          | 17          | 5           | 12          | 18          | 14          | 24          | 8           |
| 6/12月4 | 6年      | 34   | ×           | 13          | 24          | 10          | 13          | 14          | 11          | 16          | 6           |
| 6/19月4 | 音楽づくり2年 | 32   | 8           | 1           | ×           | 12          | 9           | 18          | 19          | 11          | 13          |
| 6/26月4 | 5年      | 25   | ×           | 11          | 9           | 9           | 11          | 8           | 13          | 15          | 3           |
| 7/3月4  | 日本123年  | 24   | ×           | 6           | 3           | 4           | 12          | 11          | 17          | 9           | 5           |
|        | 平均      |      | 5.333333333 | 12.81481481 | 13.16666667 | 8.592592593 | 11.59259259 | 12.85185185 | 10.81481481 | 16.40740741 | 6.703703704 |

いていることが明らかとなった。「授業時の先生らしさ」における教師の言動や振る舞いなどは他の教科でも共通していることであり、評価する立場として取り掛かりやすさもあるものと思われる。「歌唱の技能」についても音楽科ならではの観点であるが、歌唱指導が重要な役目を果たすことから着眼しているものと思われる。「授業づくりに必要な事柄」については事前準備のことであるが、ここ次第で模擬授業が変わってくるものである。「教材の理解」についても、児童に何を聞かれても応えられるようになるために、事前に頭の中に入れておく必要がある。

一方で、観点4の「楽器演奏の技能」(8.59)および、観点9「主体的に活動」(6.70)の部分にコメントが少ないのも特徴的である。また観点1「学習指導案の書き方の理解」(5.33)については、音楽づくりの授業時のみ使用した観点であるが、数値は平均していることで条件は同じであり、コメントが少ないと言える。見るべき観点の優先順位として後回しになることもやむを得ないのかもしれないが、評価する観点がやや多いということも課題として挙げられよう。

## (2) 教師の事前介入による成績の変化

表8に学生による相互評価の平均を掲示した。まず、音楽づくりを行った3回の授業を見ると、学生の全観点の平均は「4.14」「4.48」「4.58」と高めである。特に「4.58」は全27回分の授業の中で最高平均点である。これは、音楽づくりの指導案に関しては、筆者と学生が事前に打ち合わせを行うことを必須にしており、授業が崩壊しないように流れをある程度コントロールしていることも理由としてあげられよう。これは学生と授業の質を守るためでもある。また、「音楽づくり」の模擬授業は、小学校では3～5時間程度かかるものを凝縮し、完成までを60分で行う。それにより、参加した学生自身が「出来上がった」という達成感を持ってチェックシートにコメントを記入するという背景もある。満足度がそのまま評価につながっているとも言えよう。言い換えれば、「音楽づくり」の授業は学生の子供の頃の経験だけ、もしくは指導書を見るだけでは、学生は満足する授業計画を作成できるとは限らないのが現状であり、教員養成機関としてきちんと指導をすることが大切である。

一方、「歌唱指導」の模擬授業の全観点平均は、「3.7」から「4.52」までまちまちである。このうち、該当する各8観点中4観点以上で「3.7」を下回る評価を出している模擬授業が3グループあり、評価平均の足を引っ張る結果となっている。この3グループは、観点3「歌唱の技能」および観点9「主体的に活動」がいずれも低くなっており、評価者から見て模擬授業にやる気や熱意が感じられず、歌もまともに練習をせずに行ったと判断されたのが見えてくる。

他方、金曜4限組の7月7日と14日組の評価が「4.43」「4.52」と高いのは、すでに模擬授業も後半の時期であり、今まで他の人たちが行ってきた模擬授業に対し筆者がその場で述べた内容を受けて、学生が対策を行ったものと思われる。また、このメンバーの一部は自主的に筆者の研究室に訪問し、内容に関して事前に指導を仰いできたことにより、筆者は最低限行うべき情報を開示している。これは、同時期に行っている月曜日の組にも一部その現象が現れている。これらのように、本人たちが情報を得ようと努力するのとならないのと、ある程度評価が分かれたと言っ

表 8 模擬授業観点別平均

| 日程       | テーマ     | 記載人数 | 観点1平均    | 観点2平均    | 観点3平均    | 観点4平均    | 観点5平均    | 観点6平均   | 観点7平均    | 観点8平均    | 観点9平均   | 全観点平均   | 平均四捨五入 |
|----------|---------|------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|---------|---------|--------|
| 5/12 金 4 | 日本123年  | 36   | ×        | 3.53     | 3.14     | 4.19     | 3.58     | 4.19    | 3.92     | 3.58     | 3.58    | 3.71375 | 3.71   |
| 5/19 金 4 | 1年      | 22   | ×        | 3.64     | 4.18     | 3.73     | 3.77     | 4.36    | 4.27     | 4.14     | 4.23    | 4.04    | 4.04   |
| 5/26 金 4 | 2年      | 17   | ×        | 4.47     | 4.35     | 3.59     | 4.41     | 4.24    | 4.35     | 4.65     | 4.39    | 4.30625 | 4.31   |
| 6/2 金 4  | 音楽づくり3年 | 31   | 4.45     | 4.03     | ×        | 4.19     | 3.71     | 4.58    | 4.16     | 3.87     | 4.13    | 4.14    | 4.14   |
| 6/16 金 4 | 3年      | 32   | ×        | 4.38     | 4.09     | 4.59     | 4.31     | 4.72    | 4.5      | 4.19     | 4.25    | 4.37875 | 4.38   |
| 6/30 金 4 | 日本456年  | 31   | ×        | 4.26     | 3.65     | 4        | 4.1      | 4.58    | 4.23     | 4.32     | 4.03    | 4.14625 | 4.15   |
| 7/7 金 4  | 5年      | 33   | ×        | 4.45     | 4.42     | 4.3      | 4.33     | 4.7     | 4.48     | 4.45     | 4.3     | 4.42875 | 4.43   |
| 7/14 金 4 | 6年      | 34   | ×        | 4.53     | 4.65     | 4.53     | 4.44     | 4.62    | 4.62     | 4.35     | 4.44    | 4.5225  | 4.52   |
| 7/21 金 4 | 4年      | 37   | ×        | 4.24     | 4.54     | 4.59     | 4.16     | 4.3     | 4.19     | 4.21     | 4.03    | 4.2825  | 4.29   |
| 5/8 月 3  | 1年      | 33   | ×        | 3.58     | 3.76     | 3.91     | 3.82     | 4.15    | 3.58     | 3.88     | 3.82    | 3.8125  | 3.81   |
| 5/15 月 3 | 2年      | 22   | ×        | 3.64     | 3.64     | 3.28     | 3.91     | 4.18    | 3.91     | 3.64     | 3.59    | 3.72375 | 3.72   |
| 5/22 月 3 | 日本456年  | 28   | ×        | 4.29     | 3.89     | 3.54     | 3.96     | 4.57    | 4.11     | 4.14     | 3.82    | 4.04    | 4.04   |
| 5/29 月 3 | 3年      | 35   | ×        | 3.86     | 3.86     | 4.09     | 3.63     | 4       | 3.71     | 3.63     | 3.46    | 3.78    | 3.78   |
| 6/5 月 3  | 4年      | 30   | ×        | 4        | 3.83     | 4.37     | 3.83     | 4.1     | 3.97     | 4.03     | 3.7     | 3.97875 | 3.98   |
| 6/12 月 3 | 日本123年  | 31   | ×        | 3.77     | 3.45     | 4.06     | 3.35     | 4.03    | 3.65     | 3.71     | 3.58    | 3.7     | 3.7    |
| 6/19 月 3 | 5年      | 36   | ×        | 4.31     | 4.22     | 4.03     | 4.22     | 4.44    | 4.39     | 4.31     | 4.08    | 4.25    | 4.25   |
| 6/26 月 3 | 6年      | 18   | ×        | 4.06     | 4.17     | 4.56     | 4.17     | 4.17    | 4        | 4.17     | 3.78    | 4.135   | 4.14   |
| 7/3 月 3  | 音楽づくり1年 | 13   | 4.62     | 4.08     | ×        | 4.38     | 4.54     | 4.54    | 4.54     | 4.54     | 4.62    | 4.4825  | 4.48   |
| 5/8 月 4  | 2年      | 38   | ×        | 3.97     | 4.37     | 3.72     | 3.74     | 4.32    | 3.87     | 3.95     | 3.92    | 3.9825  | 3.98   |
| 5/15 月 4 | 日本456年  | 31   | ×        | 3.65     | 3.42     | 4.52     | 3.84     | 4.35    | 3.94     | 3.71     | 3.45    | 3.86    | 3.86   |
| 5/22 月 4 | 1年      | 30   | ×        | 4.07     | 4.07     | 3.9      | 4.1      | 4.47    | 4.63     | 4.33     | 4.07    | 4.205   | 4.21   |
| 5/29 月 4 | 4年      | 32   | ×        | 3.63     | 3.88     | 4.22     | 4        | 4       | 4.09     | 4.06     | 3.66    | 3.9425  | 3.94   |
| 6/5 月 4  | 3年      | 34   | ×        | 4.03     | 3.38     | 3.79     | 3.79     | 4.44    | 4.18     | 4.35     | 3.88    | 3.98    | 3.98   |
| 6/12 月 4 | 6年      | 34   | ×        | 4.12     | 4.38     | 4.56     | 3.97     | 4.47    | 4.35     | 4.29     | 4.03    | 4.27125 | 4.27   |
| 6/19 月 4 | 音楽づくり2年 | 32   | 4.78     | 4.13     | ×        | 4.56     | 4.44     | 4.84    | 4.72     | 4.53     | 4.66    | 4.5825  | 4.58   |
| 6/26 月 4 | 5年      | 25   | ×        | 3.8      | 3.96     | 3.6      | 3.44     | 4.2     | 3.96     | 4.04     | 3.76    | 3.845   | 3.85   |
| 7/3 月 4  | 日本123年  | 24   | ×        | 4.33     | 4.38     | 4.25     | 4.63     | 4.71    | 4.63     | 4.42     | 4.21    | 4.445   | 4.45   |
| 観点別平均    |         |      | 4.616667 | 4.031481 | 3.986667 | 4.112963 | 4.007037 | 4.38037 | 4.183333 | 4.129259 | 3.98037 |         |        |

でも過言ではない。さらに言えば、学生が高評価を得るためには、歌唱指導の際も事前に指導することが明らかとなったことから、今後は歌唱指導にも事前相談を勧めていくか検討の余地がある。

(3) 教師役の話し方による評価の影響

観点8「授業時の先生らしさ」には話し方も含まれている。ここでは、教師としての話し方の観点到い、特に抑揚を意識して話せた先生役の評価が高めとなっている。観点8の「授業時の先生らしさ」に関する学生のコメントを集約し、表9として掲示する。6月の模擬授業のほうに「疑問点メモ」に助言が多く記述されている。実際に映像を見ても、話し方が固く、ボソボソと話すのがもったいないという印象である。逆に7月の授業については、「言葉遣いがとても丁寧」であり、もう少し「砕けた話し方」でも良いと書かれるほどであったが、評価は良くなっている。このことから、学生は模擬授業において、丁寧な話し方をする方が良いという認識を持っていることが伺える。

表9 観点8「先生らしさ」のコメント比較

| 日程チーム                | 良い点メモ  | 疑問点メモ  | 評価平均 |
|----------------------|--|--|------|
| 6月2日<br>金4<br>音楽づくり  | 楽器の紹介が、児童の興味をひくような話し方でとても良かった。グループでの活動の際、助言をしてくれて良かった。子どもたちのイメージの発言に対して応えていた。質問に丁寧に答えていた。グループ毎に回ってアドバイスする様子などがみられ、良かったと思う。学年に対応した言葉で、話すスピードなどもよかった。楽器を持ったり話し合いをしていたりして騒がしくなった時に注目を集める、静かにする、ような指導を流さずにその都度行っていた。言葉を選びながら慎重に話しているのがわかった。話し方が優しい口調で丁寧に良かったと思います。 | 初めてなので仕方ないと思うけれど、先生になりきれてない部分が見えた。話している内容は素晴らしいと思うので、もっと自信を持って笑顔でやると良かったと思いました。何度も同じ言葉を使っていたので、いろんな言葉を使って、その人の良さを表せるのもっと良くなると思いました。声が少し小さかった。全体的にもう少しはきはきした声で説明を行ったほうがもっといい授業になると思いました。声量が良い人と悪い人の差が激しかったように思いました。さらに、生徒の感想を「そうですね～」と聞くのではなく、プラスαして返せたらいいのかと思いました。 | 3.87 |
| 7月3日<br>月4<br>日本123年 | 歌う時ちゃんと後ろまできてたり、こちら側をちゃんと見ていたのでよかったです。先生の言葉遣いがとても丁寧でした。先生の話を聞いていて素敵な言葉遣いだなと思いました。みなさん大きな声で笑顔で先生役をやっていてよかったですと思います。机間指導をしっかりまわって緊張感が持てた。  | 話し方がもう少し子ども向けに砕けた話し方でもいいと思う。   | 4.42 |

また、授業の展開において、子どもに質問を投げかけ、参加型で授業を展開できたグループは、高評価の傾向が見られた。反対に、指名をせず一方的に説明をずっと行ったり、質問をしてはいるものの意味がわからない発問だったり、「分からないよね」などと教師側が決めつけたりしているグループは、評価が落ちているのが見られる。これも観点8を中心に、他の観点でもコメントとして言及されている。これらの例から、いかに教師になりきって発言等をするかが、評価を上げる鍵となっているのが分かる。逆に言えば、観点8の設定により、そのような現象が明らかになったと言える。

## B テキストマイニングによる分析

### (1) 全体の単語の出現頻度

総抽出単語数は62,110であった。品詞を5種類とし、出現回数を10回以上とした結果を表10に示す。それによると、「歌う」517回を筆頭に「児童」381回、「説明」332回、「歌詞」312回のように、歌唱指導の際の意味説明についての記述が多いことが分かる。以下、それぞれの活動にて記載された言葉について、テキストマイニングを用いて分析する。







このうち、図2からして多くの共起関係となっているものは、ア)イ)の2点であり、他の観点については少数意見と見なす。よって、重要なのはア)イ)、すなわち観点2「教材の理解」および観点3「歌唱の技能」となった。

一方、記述について課題が出てきた。自由記述の内容が、こちらで意図している観点ではないところに書かれている点があげられる。この背景には、模擬授業時に記載する観点が8箇所あり、そのうち2箇所以上に記載という課題がある。すなわち、書きたい内容がどの観点であるか判断に迷ったのか、それとも意図的にその記述欄を選んだのかは分からず、処理が難しくなっている。そのため、分かりやすい観点の分類が必要であると言える。

(3) 音楽づくりに関する分析

共起関係の多い順に「楽器-児童」(共起回数23)、「教師-児童」(同20)、「授業-児童」「楽器-教師」(同15)となった。今回の音楽づくり教材は、いずれも楽器を使用しての表現であったことから、このような結果になったと思われる。これらのことと図3を絡めて、学生のコメントから重要とされた観点に関して、以下のようにまとめる。

- ア) 「準備-楽器-教師-演奏」および「最初-お手本」(演奏の技能および準備)
- イ) 「グループ-音楽-児童-楽しい」(進め方の工夫)
- ウ) 「説明-聞く-導入-活動-伝わる」(模擬授業の流れ)
- エ) 「テーマ-自分-弾く-難しい-出来る」(児童役の感想)

これをみると、これまでの観点には収まらないことが見える。ア)については観点4「楽器演

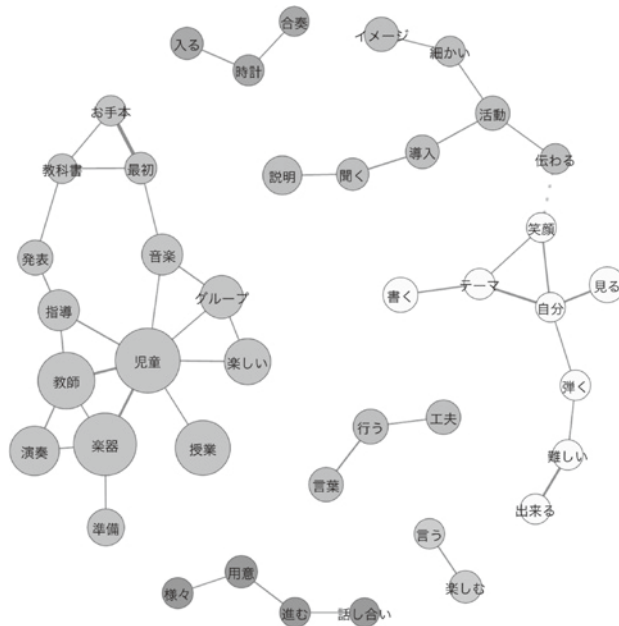


図3 音楽づくり3回分(共起ネットワーク) 描画数40

奏の技能」といえるのだが、事前に授業で使用する楽器を、学生が別棟にある楽器倉庫から運搬し準備していることから、観点6「授業づくりに必要な事柄」にも含まれるといえる。また、イ)～エ)については進め方の工夫(グループ学習)や流れ、児童役感想などが書かれていることなどから、観点7「模擬授業の実践」に一応収められるが、観点が霞んでいると言えよう。対策としては、観点をもっと細分化していくか、もしくは一括して受け入れることができる別の観点が必要であろう。

逆に観点1「指導案」については出現されていないことから、模擬授業に参加する立場からすると指導案はさほど重要視されていないことが見えてくる。これは現場の児童のことを考えれば当然である。授業を設計するにあたり図面となるのが指導案であるという大前提は教員を目指す学生にとって揺らぐことはないが、そこを児童は意識していない。これは今回対象の大学生にも言えることから、「指導案」についてこの評価の観点からは外すことも検討する必要がでてくる。ただし、教員養成学部として指導案を意識していないということは、授業の構成に際しあり得ないことであるため、模擬授業の前段階において、授業の見方を養っていけるような指導をしていく必要がある。

## 4 結 果

### (1) 観点別ルーブリックの効果

まずはAについて、細分化したことにより評価の数値化がなされ、以下のようなことが明らかとなった。

- ・学生は「授業時の先生らしさ」「歌唱の技能」「授業づくりに必要な事柄」および「教材の理解」について、音楽科において授業を行うときの重要なテーマと捉えている。
- ・学生にとって「楽器演奏の技能」「主体的に活動」「学習指導案の書き方の理解」に関しては、あまり重要視されていない。
- ・「授業時の先生らしさ」として、教師役の話し方で教室の空気感が変わり、児童役の発言を活かした授業展開を行った模擬授業の評価が高い傾向にある。

これらの傾向から、授業は音楽の専門性も必要ではあるが、それと同様に(またはそれ以上に)教師としての振る舞いや言動、そして教材研究(ワークシートや豆知識などの周到な準備)が重要ではないか、という学生の思考が明らかとなった。このことから考えると、有効な観点として「先生らしさ」「音楽面(歌唱手本)」「教材研究(準備を含む)」が挙げられる。一方、「楽器演奏(ピアノ)」「楽しむ」「指導案」の自由記述については内容を精選し、他の観点と統合するか観点から外したほうが良いと思われる。

(2) テキストマイニングより

次にBについては以下のとおりである。

- ・歌唱指導からはすべての観点が見出されたが、特に「教材の理解」「歌唱の技能」が重要と捉えている。
- ・音楽づくりからは「楽器演奏の技能」「授業づくりに必要な事柄」が重要である。
- ・「模擬授業の実施」については観点的に別の角度での視点が必要である。
- ・「学習指導案の書き方の理解」については触れられていない。

これらのことから、自由記述において「演奏の技能」の観点は歌唱・器楽ともに必要であり、また、教材を理解するための「教材研究（準備を含む）」の観点も重要であることが分かった。さらに「模擬授業」に関しては、観点的に分類しきれない言葉がある場合にも記入できる「行き先」を確保する必要がある。

(3) 総括

以上のことをまとめると、模擬授業における評価の観点は、表11を見出すことが出来る。前期分実施の反省や課題から、以下(あ)～(き)のような工夫を行い、後期「音楽科の指導法」から部分的に実施を行っていく。

- (あ) 「求める能力」について、再構成を行った。「演奏指導」「全体構成(旧模擬授業)」「先生らしさ」について、「技能」のカテゴリーに属すると判断したことによる。また「授業づくりに必要な事柄」の表記だと「知識・技能」に含まれる部分があり、観点が横断

表11 音楽科模擬授業における評価の観点 2017 後期版 (筆者作成)

| 求める能力       | 評価の観点  | ルーブリック   | 自由記述   |
|-------------|--|----------|--------|
| 知識・技能       | 音楽手本：歌唱手本・ピアノ伴奏・楽器演奏手本ができる                                 | ① 歌唱・ピアノ | A 音楽面  |
|             | 演奏指導：音程、歌詞、強弱、合図、指揮など                                      | ② 演奏指導   |        |
|             | 教材研究：教材の知識（内容・情報面・歌詞の意味・歌の変遷など）                            | ③ 知識     | B 内容   |
|             | 全体構成：楽しい導入・展開・満足のいくまとめなど                                   | ④ 全体構成   |        |
|             | 先生らしさ：話し方（声量、スピード、語彙の選択、原稿を棒読みしていないか）、動き（机間指導、見取り、表情）      | ⑤ 先生らしさ  |        |
| 思考力・判断力・表現力 | 準備物：準備物（CD・DVD・模造紙）、掲示（パワーポイントなど）、楽器、板書計画、教室配置（机など）、ワークシート | ⑥ 準備物    | D 準備物  |
| 学びに向かう力・人間性 | 主体的な活動：興味（関心意欲態度）、伝えようとしているか、楽しんでいるか、役割分担                  | ⑦ 態度     | (上記以外) |

- 的になることから、「準備物」と表記を変更し、「思考力・判断力・表現力」に残した<sup>12)</sup>。
- (い) 自由記述欄において、ループリック①②を「A音楽面」、③④を「B内容」とし、複数のループリックに対し一つの記述にした。これにより、自由記述における「紛らわしい表記」が減少するものと思われる。
- (う) 9観点だったものを7観点(①～⑦)とし、自由記述は4観点(A～D)プラス1にまとめた。なお、自由記述は今後も2観点以上の記入を課題とする。
- (え) 「指導案」を評価の観点から外す。授業を構成する大前提と考えるようにすることから観点到残さず、模擬授業より前の段階で、全員に担当部分の指導案を児童の学習するペースで書かせるなど、適切な指導を行っていく。
- (お) 「音楽面の演奏手本」として、ピアノ伴奏・歌唱手本・楽器演奏手本を統合する。グループのメンバーを構成する段階でピアノが弾ける人を入れるように配慮をしていることから、ピアノ演奏単独の評価は不要であり、統合してかまわないと判断した。
- (か) 上記「(え)(お)」より、これまでのような『『歌唱の技能』は歌唱指導の模擬授業のみで判断』などといった、学習内容により評価の観点が変化することを避けるようにした。
- (き) 自由記述欄については、学生の判断でA～Dのどこにも所属しにくいと思うものは『(上記以外)』の部分に入れるようにした。個々に記載された内容については、教師側の判断により、別の欄に再配置することもあり得ることとした。

なお、「求める能力」については「能力分析の観点」であるが、細かな「評価の観点」については「内容分析的観点」になっている。これについては検討の余地があるが、実際の新たな学習指導要領における小学校等での評価の実施を見ながら、今後考えていきたい。そして、今後も学生の指導能力を育てていくために、このツールを改善していきたいと考えている。

### 【註】

- 1) 芳賀均 (2015) 「学習指導案における「評価」に関する一考察—音楽科を中心に—」北海道教育大学紀要(教育科学編)第66巻 p.4
- 2) 「小学校学習指導要領解説 音楽編」(文部科学省)  
<http://www.mext.go.jp/> (2017.10.22 参照)
- 3) 安藤江里 (2015) 「初等教員養成に必要とされる音楽経験に関する一考察—模擬授業の有効性—」埼玉学園大学・川口短期大学、川口短大紀要第29巻 p.197
- 4) 「平成30年度(29年度実施)千葉県・千葉市公立学校教員採用候補者選考方針について」(千葉県教育委員会)  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/syokuin/ninyo/h30/documents/h30kanten.pdf> (2017.11.11 参照)
- 5) 「平成30年度鳥取県公立学校教員採用候補者選考試験(第二次選考試験)選考基準」(鳥取県教育委員会)  
[http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1091011/H30\\_senkoukijyun\\_dai2ji.pdf](http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1091011/H30_senkoukijyun_dai2ji.pdf) (2017.11.11 参照)
- 6) 「平成30年度秋田県公立学校教諭等採用候補者選考試験の選考基準等について」(美の国あき



たネット)

<http://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/24777> (2017.11.11 参照)

- 7) 松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター編著 (2015) 『デイープ・アクティブラーニング』 勁草書房 p. 180
- 8) 福島哲夫編 (2016) 『臨床現場で役立つ質的研究法—臨床心理学の卒論・修論から投稿論文まで—』 新曜社 pp. 85-86
- 9) 樋口耕一 (2014) 『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して—』 ナカニシヤ出版 p. 15
- 10) 「[KH Coder] インデックスページ」(樋口耕一)  
<http://khc.sourceforge.net> (2016.11.10 取得, 2017.10.20 参照)
- 11) 越中康治, 高田淑子, 木下英俊, 安藤明伸, 高橋潔, 田幡憲一, 岡正明, 石澤公明 (2015) 「テキストマイニングによる授業評価アンケートの分析—共起ネットワークによる自由記述の可視化の試み—」 宮城教育大学 情報処理センター研究紀要第 22 号 p. 68
- 12) 「日本学校音楽教育実践学会第 22 回全国大会」(2017.8) の口頭発表時にギャラリーからいただいた助言により調整を実施した。

#### 【参 考 文 献】

- 13) 長谷川望 (2016) 「模擬授業及び振り返り方法の検討」 愛知東邦大学, 東邦学誌第 45 号第 2 号
- 14) 山中護 (2017) 「教員養成大学における模擬授業の系統的指導のあり方—算数科及び社会科の実践をもとに—」 千葉敬愛短期大学紀要第 39 号
- 15) 福井広和 (2015) 「理科模擬授業における学生の授業評価の質的変容について」 就実大学教育学部, 日本科学教育学会研究会
- 16) 松浦修 (2017) 「実践的指導力育成に向けた「音楽科教育法」の授業実践と考察」 神戸女学院大学論集第 64 巻第 1 号
- 17) 「授業力チェックシート<教師自己・児童生徒>」(高知県教育センター)  
[http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310301/files/2013121700566/2013121700566\\_www\\_pref\\_kochi\\_lg\\_jp\\_uploaded\\_attachment\\_51574.xls](http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310301/files/2013121700566/2013121700566_www_pref_kochi_lg_jp_uploaded_attachment_51574.xls) (2017.10.20 参照)